

SiaPlace

中野早記・高橋明代

代表



080-5197-5952



東京都渋谷区道玄坂1-10-8渋谷
道玄坂東急ビル2F-C

ビジョン

必要なときに、必要な場所へ。病気になってからではなく、その前から看護が暮らしの中にある。人生の“もしも”に備えるだけでなく、“もしも”が起こる前からそっと寄り添い続けます。

合同会社SiaPlaceは、保険外の訪問看護と美容医療を組み合わせた新しいサービスを提供しています。救命救急やICUで経験を積んだ看護師の中野早記さん・高橋明代さんが、自費の訪問看護で利用者と家族を支える一方、白玉点滴やビタミンC点滴に加え、肌のピーリング治療・薄毛治療・幹細胞の再生医療など多様な施術を実施。在宅医療と美容医療の両面から、心身の健康と生活の質向上を目指しています。（2025年8月取材）

看護師を目指したそれぞれの歩み

まずは中野さんが看護師を目指したきっかけを教えてください。

中野 私に看護という職業に興味を持ったきっかけは、母が現役の看護師で、中学生のころ、母から「手に職をつけなさい」「あなたの性格は看護師に向いている」と言われ、その言葉が心に残ったためです。当時は具体的にどのような仕事なのか詳しくは分かっていませんでしたが、人の役に立てる専門職という響きに惹かれ、少しずつ将来の選択肢として意識するようになりました。

高校3年生に進路選択の時期が訪れ、看護系の大学を目指せる理系クラスを選択しましたが、当時の私は生命の仕組みや科学的な探究にも魅力を感じていたため、「研究職にも就いてみたい」という思いも抱えていました。

生命倫理や遺伝子学について学べる大学への進学も視野に入れていたのですが、家族や担任の先生から「看護師の方があなたに向いている」と助言を受け、最終的に看護系の大学への進学を決めました。それでも大学在学中は、「本当に自分は看護師に向いているだろうか」「このまま看護師を目指してよいのだろうか」と迷いが消えず、ほかの大学への編入まで考えた時期がありました。

しかし、実際に看護実習で患者様に寄り添いながらケアを行う看護師の姿を目にしたとき、これまでイメージしていた看護師像とは異なり、患者様に深く関われる看護師ならではの魅力に気づき、看護師を目指す決心を固める大きな転機になったのです。

大学卒業後はどのような職場に就職されたのですか？

中野 「医療・看護についてできるだけ幅広く、かつ深く学びたい」という気持ちが強く、救命救急センターに強い関心を持っており、入職後1年目から救命救急センターに配属させてもらえる大学病院へ就職しました。



実は当初、自分がどのようなフィールドでキャリアを重ねていけば良いのか迷っており、配属希望を決める前に大学の先生へ相談したところ、「内科は比較的落ち着いているから働きやすい一方、急性期のようにスピード感や緊迫感のある職場への異動や転職は難しくなる可能性がある」というアドバイスをいただきました。

その先生は、人と関わるのが得意ではなかったため、患者様と直接会話する機会が少ない手術室での勤務を選んだそうで、自分が手術室で働く姿を想像してみたのですが、閉鎖的な空間働くのは物足りなく感じ、「自分にはあまり合わないかもしれない」と思いました。

また、循環器科や消化器科のように、特定の部位や疾患を専門とする診療科目では、得られる知識・スキルが限られてしまうので、内科・外科を問わず多様な症例に出会える救命救急センターが良いのではないかと思います。

当時の私は今のように人前で積極的に話すタイプではなく、友人からは「救命救急センターはあなたには向いていないのでは」と言われたこともありましたが、結果として8年間勤め続け、緊迫した現場の中で看護師として大きく成長できました。

高橋さんはどういうきっかけで看護師を目指したのですか？

高橋 私は看護系ではない大学に進学し、在学中に国際紛争や貧困問題など国際関係論に強い興味があったのですが、世界規模の問題を学んでいると、まずはもっと身近で規模の小さな課題に直面している現場を知りたいと考えるようになりました。そこで、大学卒業後に3年制の看護学校へ通い、大学とは違う厳しい規律や実習の連続で苦労を重ねながら看護師を目指しました。



看護学校卒業後はどのような職場で働きましたか？

高橋 私は看護系ではない大学に進学し、在学中に国際紛争や貧困問題など国際関係論に強い興味があったのですが、世界規模の問題を学んでいると、まずはもっと身近で規模の小さな課題に直面している現場を知りたいと考えるようになりました。そこで、大学卒業後に3年制の看護学校へ通い、大学とは違う厳しい規律や実習の連続で苦労を重ねながら看護師を目指しました。



中野さんと高橋さんはどこで出会ったのですか？

高橋 私たちが出会ったのは10人ほどの看護師による交流会で、月に1度程度の頻度で開催されていて、東京から参加していたのは私と中野の2人だけでした。

会話を重ねるうちに、お互いが目指す方向性が似ていると感じ、自然と将来のビジョンについて語り合うようになりました。

その中で、「訪問看護をするなら、個人事業主よりも法人として事業を行ったほうが信頼性が高く、サービスの幅も広がるのではないか」という考えが芽生え、起業を意識し始めました…



続きはQRコードからアクセスしご覧ください → → →